

令和5年度

丹沢大山ボランティアネットワーク
活動報告書

目 次

I 丹沢大山ボランティアネットワーク事業報告

- 1 水質調査
- 2 瓦版の発行

II 会員団体活動掲示板

神奈川県勤労者山岳連盟
横浜わらび山の会
神ノ川ヒュッテ管理委員会
NPO法人 北丹沢山岳センター
NPO法人 丹沢自然保護協会
蛭ヶ岳山荘委員会
NPO法人 みろく山の会
NPO法人 野生動物救護獣医師協会神奈川支部
町田グlaus山の会
NPO法人 野生動物救護の会
丹沢環境推進会議

III 世話人会の活動報告

I 事業報告

1 水質調査

2 瓦版の発行

114号、115号、116号、117号

3 講演会・交流会

※ 2瓦版（116号）参照

令和5年度水質調査結果一覧 <上段:検査項目 中段:単位 下段:水質基準(参考)>

| 調査地点 | 採水日 | 一般細菌 | 大腸菌 | 硝酸態窒素及 亜硝酸態窒素 | | 塩化物イオン | 有機物 | pH値 | 味 | 臭気 | 色度 | 濁度 | 水場周辺の状況 | | | | 気象の状況 | | | |
|---------------|-------|-----------------|--------------|------------------|--------------|---------------|-------------|----------------|-------------|-------------|------|-------|-----------|------|---------------|---------------|----------|----------|---------|---------|
| | | CFU/ml | - | mg/l | mg/l | mg/l | mg/l | - | - | - | 度 | 度 | ゴミ散乱 | 野外排泄 | トイレ | 水場種類 | 天候 当日 | 天候 前日 | 気温 ℃ | 水温 ℃ |
| | | 100CFU/ml 以下 | 検出されな いこと | 0.04mg/l 以下 | 10mg/l 以下 | 200mg/l 以下 | 3mg/l 以下 | 5.8以上8.6 以下 | 異常でない こと | 異常でない こと | 5度以下 | 2度以下 | | | | | | | | |
| 1 半原越付近 | 5月24日 | 3 | 不検出 | 0.004未満 | 0.5 | 2.0 | 0.4 | 7.6 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | 晴 | 雨 | 16 | 12 |
| 2 日向林道起点水場 | 5月3日 | 0 | 不検出 | 0.004未満 | 0.6 | 2.3 | 0.4 | 7.5 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | 晴 | 晴 | - | 13 |
| 3 護摩屋敷跡 | 5月24日 | 0 | 不検出 | 0.004未満 | 0.5 | 1.5 | 0.3未満 | 7.6 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | 晴 | 雨 | 15 | 11 |
| 4 堂平沢 | 5月24日 | 9 | 不検出 | 0.004未満 | 0.1 | 0.8 | 0.6 | 7.6 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 流水 | 晴 | 雨 | 12 | 10 |
| 5 原小屋平水場 | 6月10日 | 0 | 不検出 | 0.004未満 | 0.2 | 0.6 | 0.4 | 7.5 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 沢水 | 晴 | 曇 | 20 | 13 |
| 6 黍穀山避難小屋 | 6月10日 | 1 | 不検出 | 0.004未満 | 0.4 | 0.9 | 0.5 | 7.5 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | 晴 | 曇 | 20 | 14 |
| 7 大山 弘法の水場 | 5月26日 | 20 | 不検出 | 0.004未満 | 0.6 | 2.1 | 0.3 | 7.5 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | 晴 | 晴 | 16 | 13 |
| 8 春嶽湧水 | 5月26日 | 2 | 不検出 | 0.004未満 | 0.5 | 1.7 | 0.3 | 7.6 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | 晴 | 晴 | 16 | 12 |
| 9 葛葉の泉 | 5月3日 | 2 | 不検出 | 0.004未満 | 0.5 | 2.3 | 0.3未満 | 7.5 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | あり、約20m 下流 | 湧水 | 晴 | 晴 | 22 | 16 |
| 10 竜神の泉 | 5月3日 | 0 | 不検出 | 0.004未満 | 0.8 | 1.9 | 0.3 | 7.6 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | 晴 | 晴 | 22 | 17 |
| 11 後沢乗越水場 | 5月28日 | 5 | 検出 | 0.004未満 | 0.3 | 1.1 | 0.4 | 7.6 | - | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | 晴 | 曇 | 20 | 13 |
| 12 二俣の水場 | 5月28日 | 9 | 検出 | 0.004未満 | 0.3 | 1.2 | 0.4 | 7.6 | - | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 沢水 | 晴 | 曇 | 19 | 13 |
| 13 大倉高原山の家水場 | 5月28日 | 6 | 検出 | 0.004未満 | 0.7 | 1.4 | 1 | 7.6 | - | 正常 | 4 | 0.5未満 | なし | なし | あり、水場に 隣接 | 沢水 | 曇 | 晴 | 20 | 14 |
| 14 塔ノ岳水場 | 5月28日 | 0 | 不検出 | 0.004未満 | 0.1未満 | 0.8 | 0.3未満 | 7.6 | 正常 | 正常 | 2 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | 晴時々 曇 | 晴 | 15 | 9 |
| 15 皆瀬川人遠 | 5月3日 | 7 | 検出 | 0.004未満 | 0.5 | 2.6 | 0.4 | 7.6 | - | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 湧水 | - | 晴 | 24 | 16 |
| 16 西丹沢県民の森 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 17 仲ノ沢法面湧水 | 5月21日 | 0 | 不検出 | 0.004未満 | 0.4 | 1.1 | 0.3 | 7.6 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | 落ち葉等 | なし | なし | 湧水、法面 にパイプ | 曇 | 晴 | 22 | 14 |
| 18 用木沢出合 | 6月18日 | 6 | 検出 | 0.004未満 | 0.3 | 0.9 | 0.6 | 7.6 | - | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 流水 | 晴 | 晴 | 16 | 10 |
| 19 一軒屋避難小屋前水場 | 6月18日 | 10 | 検出 | 0.004未満 | 0.1 | 1.0 | 0.6 | 7.6 | - | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | ガラス片 等 | なし | なし | 流水 | 晴 | 晴 | 18 | 10 |
| 20 犬越路ずい道水場 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 21 犬越路 日陰沢 | 6月5日 | 3 | 不検出 | 0.004未満 | 0.6 | 5.9 | 0.3未満 | 7.6 | 正常 | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 沢水 | 晴 | - | 23 | 11 |
| 22 エビラ沢出合 | 6月5日 | 42 | 検出 | 0.004未満 | 0.2 | 1.0 | 0.3未満 | 7.6 | - | 正常 | 1未満 | 0.5未満 | なし | なし | なし | 流水 | 晴 | - | 25 | 13 |

※大腸菌等が検出された箇所は、味の検査は不可

No16、20…断水、水道装置故障等のため採水できず

丹沢ボラネット瓦版

2023年7月号 No.114



西丹沢・夕滝↑案内

読みづらい古い案内板→

夕滝橋へ 200m

夕滝へ 400m

吊り橋の夕滝橋は豪雨で流され今は無いです。

今は夕滝へ行くには川の中へ入りシャワークライミングです。

対岸より全景を眺めるのが一番よいです。世附川沿い不老山の登山口付近です。



令和5年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会

令和5年度総会は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、令和2年度、3年度、4年度に引き続き電子文書とメールでの開催となりました。

5月まで待てば5類感染症移行となり「総会も5月に対面開催してはどうか」という意見もありましたが、ボラネットや他団体の行事、事業等の予定もあり、例年通り4月に開催することになりました。**多分今回が最後の電子文書とメールでの定期総会となります。**

瓦版には、この貴重な総会を記録に残すため重要資料等を載せます。この新型コロナウイルス感染症危機禍における令和4～5年度のボラネット活動の様子が、県民にも次世代にも伝えられ資料となれば幸いです。

1 日時・場所

新型コロナウイルス感染症をめぐる社会情勢を踏まえ、書面にて開催

- ・令和5年4月22日 総会に向けて会計監査及び臨時世話人会 AM10:00～
- ・令和5年4月22日 各団体に資料送付
- ・令和5年5月9日 各議案への賛否回答締め切り
- ・令和4年5月11日各団体に結果報告

2 議題

- (1) 令和4年度事業報告・決算報告（資料1.2）
- (2) 令和5年度事業計画・予算(案)（資料3.4）
- (3) 世話人会の改選（資料5）
- (4) その他



←写真

総会を受け第1回世話人会
(ワーキングルーム)
R5年6月7日(水)

内 容

丹沢講演会、水質調査、世話人会瓦版、ボラネットのあり方等について協議する。

令和4年度事業報告

資料1

令和4年度事業報告

1 総会

実施日 令和4年4月23日(土)

※ 新型コロナウイルス感染症を巡る社会情勢を踏まえ書面開催

出席者 15団体

内 容 通常総会

2 世話人会

(1) 臨時世話人会(令和3年度会計監査及び会計引き継ぎ)

実施日 令和4年4月5日(火)

場 所 自然環境保全センター屋外テーブル

出席者 令和3年度会計担当含め7名

内 容 ① 総会へ向けて 会計監査及び臨時世話人会
② 新型コロナウイルス感染症禍における事業の実施等について検討
③ その他

(2) 第1回

実施日 令和4年6月1日(水)

場 所 自然環境保全センター屋外テーブル

出席者 6名

内 容 ① 年間世話人会日程等計画
② 丹沢ボラネット互版
③ 外来種駆除調査について
④ 次年度以降のボラネット活動に向けて
⑤ その他

(2) 第2回

実施日 令和4年8月28日(日)～9月7日(水) (9月14日(木)結果集約)

方 法 電子文書とメール交換による書面開催

出席者 6名

内 容 ① 加盟団体へのアンケートと実施について
② 外来種調査駆除について
③ 水質調査協力団体について
④ その他

(3) 第3回

実施日 令和4年11月29日(火)～12月1日(水) (12月17日(金)結果集約)
令和5年1月4日(水)～1月18日(水)継続審議

方 法 電子文書とメール交換による書面開催

出席者 6名

内 容 ① 令和5年度世話人会の構成に向けて

令和4年度会計報告及び監査報告

資料2

丹沢大山ボランティアネットワーク
令和4年度（2022年度）決算報告

令和5年4月1日
会計・遠藤順一

1. 収入の部

| 科目 | 予算 | 決算 | 予実差 | 備考 |
|-----|---------|---------|----------|---------------------|
| 会費 | 0 | 2,000 | 2,000 | R3 年度会費 |
| 助成金 | 380,000 | 206,345 | -173,655 | 丹沢の緑を育む集い実行委員会 水質調査 |
| 繰越金 | 87,162 | 87,162 | 0 | |
| 合計 | 467,162 | 295,507 | -171,655 | |

2. 支出の部

| 科目 | 予算 | 決算 | 予実差 | 備考 |
|---------------|--------|--------|---------|----------|
| 水質調査 | 260000 | 206345 | -53655 | |
| 登山者意識調査 | 0 | 0 | 0 | |
| 外車種駆除活動 | 70000 | 0 | -70000 | 行事中止 |
| 講演会 | 50000 | 0 | -50000 | 行事中止 |
| 世話人会運営費 | 53000 | 19680 | -33320 | 交通費、コピー代 |
| 丹沢大山自然再生委員会会費 | 10660 | 10000 | -660 | |
| 予備費 | 23502 | 0 | -23502 | |
| 合計 | 467162 | 236025 | -231137 | |

3. 収支

| 収入総額 | 支出総額 | 残高 |
|---------|--------|--------|
| 295,507 | 236025 | 59,482 |

令和4年度丹沢大山ボランティアネットワークの会計を監査しました。適正に執行されているものと認めます。

会計監査 森島真知
会計監査 栗林弘樹

R年5月21日(日)

水質調査のため西丹沢県民の森へ
県民の森には水溜があった。(直系1、3m)
モリアオガエルの大きな二つの
白い泡卵塊が縁の内側に見える。

水中にはたくさんのオタマジャクシ
が泳いでいる。 人工の水溜写真→



1 総会

実施日 令和5年4月23日(日)
内 容 令和4年度事業・決算報告及び令和5年度事業計画・予算案 他

2 世話人会

実施日 年4回(6、9、12、3月)
※ 新型コロナウイルス感染症拡大状況に応じ書面開催も検討
場 所 神奈川県自然環境保全センター(ワーキングルーム)
出席者 世話人及び自然環境保全センター自然保護課職員
内 容 事業の企画運営ほか

3 活動事業

(1) 水質調査

実施日 令和5年5月～6月
場 所 丹沢大山地域 水場22箇所
内 容 大腸菌等10項目の水質検査

(2) 講演会

実施日時 令和5年10月21日(土) 9時30分～12時
場 所 神奈川県自然環境保全センター(レクチャールーム)
講 師 青木 雄司 氏
(神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員、青山学院大学 非常勤講師、日本哺乳類学会 会員)
テーマ 丹沢の哺乳類について

(3) その他

夏休み親子自然探検隊(8月頃)の後援

※ 新型コロナウイルス感染症を巡る社会情勢等により、活動事業は中止の可能性があります。

4 広報

- (1) 瓦版の発行
- (2) 活動報告書の作成
- (3) ホームページの更新

5 関係会議等への出席

- (1) 緑を育む集い実行委員会
- (2) 丹沢大山自然再生委員会

令和5年度予算

資料4

1 収入の部

| 科 目 | 予算 (A) | 前年度予算額 (B) | 比 較 (A-B) | 備考 |
|-----|-----------|---------------|--------------|---------------------------------|
| 会費 | 54,000 | 0 | 54,000 | 世話人会の運営、丹沢大山自然再生委員会会費には繰越金を充てる。 |
| 助成金 | 290,000 | 380,000 | ▲ 90,000 | 丹沢の緑を育む集い実行委員会 水質調査、講演会等 |
| 繰越金 | 59,482 | 87,162 | ▲ 27,680 | |
| 合計 | 403,482 | 467,162 | ▲ 63,680 | |

2 支出の部

| 科 目 | 予算 (A) | 前年度予算額 (B) | 比 較 (A-B) | 備考 |
|---------------|-----------|---------------|--------------|--------------------|
| 水質調査 | 260,000 | 260,000 | 0 | 交通費補助、採水ビン送料、検定料等 |
| 外来種駆除活動 | 0 | 70,000 | ▲ 70,000 | 講師謝礼、資料代、諸器具・消耗品費等 |
| 講演会 | 30,000 | 50,000 | ▲ 20,000 | 講師謝金等 |
| 世話人会運営費 | 60,000 | 53,000 | 7,000 | 交通費補助、通信費等 |
| 丹沢大山自然再生委員会会費 | 11,000 | 10,220 | 780 | 会費、振込手数料等 |
| 予備費 | 42,482 | 47,002 | ▲ 4,520 | |
| 合計 | 403,482 | 467,162 | ▲ 63,680 | |

→写真 春嶽湧水

水質調査

以前は小雨で水が枯れ水質調査が不可になったが、今は多量の湧水が出ている。

養毛より柏木林道30分

春岳沢の上流に髭僧の滝がある。

この湧水も日本一おいしい秦野水道水源です。



令和5年度丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会 資料5

| | 氏名 | 団体名 | 任期 |
|-----|--------|-----------------|-------------|
| 代表 | 小林 昭五 | NPO法人丹沢自然学校 | 令和4.4～令和6.3 |
| 副代表 | 小野 均 | NPO法人四十八瀬川自然村 | 令和4.4～令和6.3 |
| 副代表 | 山口 寿則 | NPO法人伊勢原森林里山研究会 | 令和5.4～令和7.3 |
| 会計 | 遠藤 順一 | NPO法人野生動物救護の会 | 令和5.4～令和7.3 |
| 監事 | 栗林 弘樹 | 丹沢ゴミ調査会 | 令和4.4～令和6.3 |
| 監事 | 森島 眞知子 | 町田グラス山の会 | 令和5.4～令和7.3 |

令和5年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会結果報告

1 日時・場所

新型コロナウイルス感染症をめぐる社会情勢を踏まえ、書面にて開催

- ・ 令和5年4月 22 日 各団体に資料送付
- ・ 令和5年5月9日 各議案への賛否回答締め切り

2 出席者

回答 10 団体、未回答 17 団体

3 各議案の承認状況 すべての議案について、出席者(回答者)の過半数の賛成により、承認された。(丹沢大山ボランティアネットワーク会則第7条第3項)

議案1: 令和4年度事業報告・決算報告 資料1.2のとおり承認

(賛成 10、反対0、回答なし0)

議案2: 令和5年度事業計画・予算(案) 資料3.4のとおり承認

(賛成 10、反対0、回答なし0)

議案3: 世話人の改選 資料5のとおり承認

(賛成 10、反対0、回答なし0)

4 その他(意見等)

- ・ 事業計画については、ただ単に事業を行うのではなく会則のボラネットの目的を再確認し、目的をはっきりさせ丹沢大山地域の環境啓発や交流会等を創意工夫しながら官民協働で進めていきたい

丹沢大山ボラネット加盟団体からの投稿

 NPO法人丹沢自然学校 ナチュラル 丹沢

丹沢への案内

丹沢自然学校はボランティアを募集し水質調査へ参加しました。

毎年、NO16西丹沢県民の森水場とNO17仲の沢法面湧水の2カ所を担当しています。

玄倉林道入りロゲート→立間大橋から中ノ沢林道に入ります。ゆっくり歩くこと60分で林道の終着点に県民の森があります



別名大正の森とも言います。県民の森は範囲が広く、大正の森を含んでいます。

↑写真 西丹沢県民の森の案内図

森林浴の森日本100選・かながわの美林50選に選ばれています。

→写真 東屋の休憩所

西丹沢県民の森の中には訪問者のために水場水道や東屋があり、ゆっくり休憩ができます

問 →写真のような簡単な建物をなぜ東(あずま)屋と言いますか？

語源は都が京にあった時代の東国の呼び方です。



←写真 仲ノ沢の法面湧水

次は中ノ沢林道を下り、中ノ沢法面湧水の採水。林道途中に林道法面湧水がビニールパイプより勢いよく流れ出ています。

気温や水温等を測定し慎重に採水を行いました。

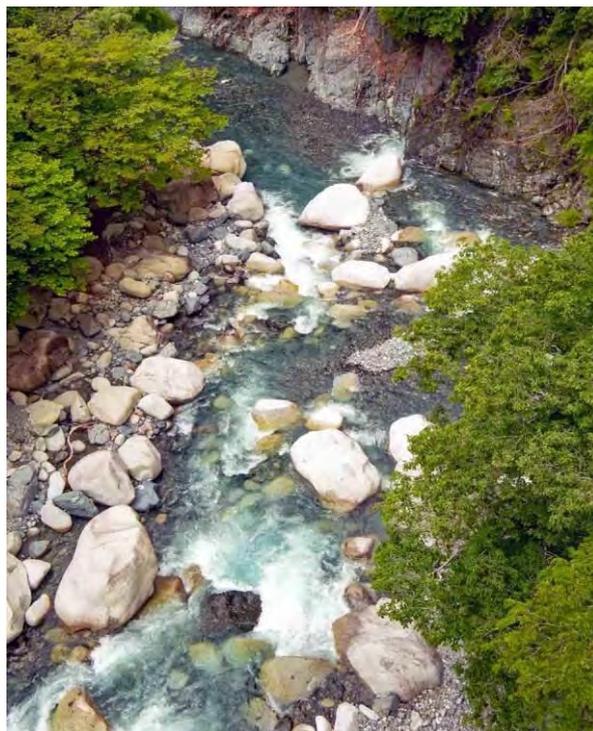
仲ノ沢林道下りながら、左下を流れる溪流は小川谷です。仲ノ沢林道から見える小川谷溪谷、風景はダイナミックで緑が美しいです。

特に玄倉川と小川谷合流付近、立間大橋からの大きな白い岩のある溪谷・溪流は特に素晴らしい。白い岩石は西丹沢溪谷の特長を示す岩石です。トータル岩と言います。

昔はあまり聞かない名前だったが、石英閃緑岩の仲間です。石英が多く含まれています。神奈川の石(岩石)に指定されています。

→写真 立間大橋から見た溪谷
(流れる川は玄倉川)

仲ノ沢林道の一番のビューポイントです。



紅一点の写真



↑写真 仲ノ沢林道沿いのニシキウツギ



↑写真 西丹沢県民の森のヤマツツジ

問 紅一点と言うが周囲は何色でしょうか？

- ① 白 ② 黒 ③ 緑

中国の詩人・王安石が読んだ詩の中にある「万緑叢中紅一点」(ばんりよく そうちゅうこういってん)を略したものです。

意味 一面緑色の草木の中に赤い花が咲いている。

実際は緑の中にザクロの赤い花が咲いているのを読んだみたいです。

丹沢ボラネット瓦版 2023 年7月号(通巻 114 号)7月6日発行

丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五

丹沢ボラネット瓦版

2023年9月号 No.115



ルリボシカミキリ（春岳山にて（7月））

「大山を歩く」(町田グlaus山の会 森島 眞知子)

7月下旬にヤビツ峠からイタツミ尾根を通して大山山頂を往復しました。連日猛暑のころですが、峠がすでに760mのためそれほど暑くなく、登山道は風が通り、ウグイス、ホトトギス、エゾハルゼミの声を聞きながら気持ちよく歩けました。

所々に提灯の様なヤマホタルブクロが咲いています。ヤマホタルブクロは両性花ですが、先に雄しべが成熟して花粉を出し(雄性期)そのあと雌しべの先端が3つにわけて、虫が運んできた他のヤマホタルブクロの花粉を受け入れて受粉するという、自家受粉を避ける工夫をしています。花を見つけるたびに中を覗いて「今は男の子」「これは女の子」などと言って楽しみました。他にはキヌタソウやバライチゴが控えめに花を咲かせていました。

山頂に近づくにつれてタンザワイケマの白い小さな花が目立ってきました。タンザワイケマは丹沢山が基準産地のガガイモ科のつる性植物(有毒)で、草地や崩壊地に生えます。モミなど樹林の衰退で日当たりが増え、またシカも食べないため、急激に増えてきたようです。帰りに春岳山に寄り道した際、草原で私の大好きなルリボシカミキリに出会い、感激! 青の絵の具の様な鮮やかな色にしばし見とれました。

コロナ禍がようやく収まりつつある今年は、全国で登山者が増え、大山周辺でも遭難が増えているようです。特に表参道の16丁目分岐~下社~葦毛越や雷の峰尾根で、転滑落が頻繁に起きています。また下社からのかごや道では道迷いも多く発生しています。事故・遭難は疲れもたまってくる下山時に多いようです。これから10月11月と日没が驚くほど早くなります。体力・経験・時間・装備を十分に考えた計画をしっかりと立てて山に臨みたいものです。



タンザワイケマ

令和5年度水質調査の報告

報告者 丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会

結果概要

- 調査か所数 22 か所
(うち2か所は断水・水道装置故障により中止)
- 大腸菌検出箇所 7 か所
後沢乗越水場、二俣の水場、大倉高原山の家水場、皆瀬川人遠、用木沢出合、一軒屋避難小屋前水場、エビラ沢出合
- ※ 大腸菌や一般細菌が検出されていない水場についても、必ず煮沸等をおこなってから飲んでください。

丹沢大山水質調査とは

「丹沢大山水質調査」は2004年度頃から実施され始め、当初は丹沢大山総合調査の一環として行われていました。途中から丹沢大山ボランティアネットワークが引き継ぎました。

現在は丹沢大山ボランティアネットワークが「丹沢の緑を育む集い実行委員会」との共催として事業を継続しています。新型コロナ禍で2020年度、2021年度と二年間中止していましたが、昨年2022年度から再開しています。

調査場所は、丹沢訪問者が比較的利用しやすく、利用頻度が高い22か所を選んでいますが、そのうち2か所は、断水・水道装置故障により採水できず実施していません。

水質調査には以下の丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体に取り組んでいただきました。お忙しい中調査にご協力いただき、ありがとうございました。

- ・ NPO法人丹沢自然保護協会
- ・ 神奈川県勤労者山岳連盟
- ・ NPO法人丹沢自然学校
- ・ NPO法人北丹沢山岳センター
- ・ NPO法人四十八瀬川自然村
- ・ NPO法人伊勢原森林里山研究会

調査項目・検出基準

調査項目は、厚労省の水質基準項目及び基準値を参考にして、11項目について調査しました。中でも重要な一般細菌と大腸菌について考えましょう。

一般細菌の厚労省水質基準値は100CFU/mlです。この単位CFU/mlは、1mlの試料を培地で培養した結果、できた集団数（Colony Forming Unit）です。一般細菌という名前の細菌があるわけではなく、いわゆる雑菌のことで、河川や土壌、空気中や体内などに広く存在し、病原性の無いものがほとんどです。しかし汚染された水ほど一般細菌が多く含まれるため、水の汚染状況を知る目安となります。

また大腸菌は、主として動物や人の排泄物や土壌生物による汚染の指標となるもので、「検出されない」ことが基準です。

水質調査の結果と考察

○ 今回の調査では、一般細菌が基準値（100CFU/ml）を超えて検出された箇所はありませんでしたが、かなり多くの地点で基準値以下ながら一般細菌が検出されています。特に次の地点では高い数値が検出されました。

7. 大山弘法の水場…20CFU/ml

22. エビラ沢出合…42CFU/ml

○ また、大腸菌は7か所で検出されました。

11. 後沢乗越水場 12. 二俣の水場 13. 大倉高原山の家 15. 皆瀬川入遠
18. 用木沢出合 19. 一軒家避難小屋前水場 22. エビラ沢出合

このうち11. 12. 15. の3地点では前回（2022年度）も大腸菌が検出されています。

また13. 18. については前回（2022年度）は調査できなかったのが比較が難しいですが、18は前々回（2019年度）の調査でも大腸菌が検出されています。（13は2019年度も調査なし）

22. は今回新たに大腸菌が検出され、一般細菌の数値も高いです。

○ 水質は季節やその年の天候、（コロナ禍などによる）人の動き、山の植生の状態などに左右されて変化すると思われるので、継続的に調査をしていく必要がありますが、丹沢で沢水や湧水をそのまま飲むことは、どんなに冷たく美味しそうに見えても大変に危険です。ほんのわずかでも一般細菌が含まれている水を持ち帰り常温におけば、細菌が増殖します。冷蔵庫に入れても長時間が経てば増殖します。

沢水・湧水は必ず煮沸してから飲んでください。

丹沢大山ポラネット加盟団体からの投稿

丹沢環境推進会議 議長小林 昭五

関東大震災から 100 年

神奈川県、丹沢大山地域、秦野市、中井町等も大きな影響被害を受けました。
今年は関東大地震から100年が経過し、県内各地でも秦野市でも資料展等が行われています。

丹沢大山自然再生委員会でも活動報告会のシンポジウムテーマは、今年度は「**関東大震災から100年**」と決定し取り組んでいます。



震生湖 (秦野市 中井町)

↑写真 秦野市と中井町にある震生湖

関東大地震（1923年・大正12年9月1日）の影響でつくられた湖です。

震生湖のある場所の案内 弘法山、権現山は大山の南稜線の裾にあります。



権現山展望台から南西（箱根方面）



権現山展望台から西（西丹沢方面）

権現山の案内板（秦野盆地東側から写す）

←写真（震生湖は盆地南側の大磯丘陵に有る）

秦野盆地は大磯丘陵と丹沢で囲まれている。

震生湖

大きさ 13,000 m² 周囲約 1,000m 最大水深 10m 平均水深 4m
大磯丘陵の北西部（渋沢丘陵）にある市木沢（流れる川は藤沢川→中村川→相模湾）の最上部北斜面の山林等が幅 250m、高さ 30mほど地滑りし崩壊しました。（地図の赤い線部分）

そのときの地滑り崩壊土砂が、市木沢を埋めて震生湖が誕生しました。関東大地震から 100 年が経た今日でも、堰止湖をつくる「湖面」「崩落地」「堰止地」が確認できるので稀少です。（登録記念碑文）

関東大地震の規模の大きさを、今日まで伝える重要な地質遺産であるため、令和 3 年（2021）3 月 26 日に国登録記念物に登録されました。



青部分（堰止土砂） 市木沢（藤沢川・青い線）

↑写真 震生湖周辺の地形図



↑写真 国登録記念物 碑

震生湖の東側降り口道路付近の南斜面の赤い部分が崩壊部分で、方向は沢底に向かって矢印の方向です。青く囲まれた部分が土砂で埋め尽くされ市木沢を埋め尽くしました。その結果震生湖が誕生しました。

震生湖の東側入り口を東へ約100m先に南側に細い草で覆われた細い農道があります。その農道を市木沢方向へ下ると、やっと市木沢へ出ることができます。市木沢底につく少し前に路頭があり、渋沢丘陵の箱根火山が原因の東京軽石層等も観察できます。今は草木等が覆い被さり市木沢へ降りるのが大変です。

新しくつくられた堰止湖（震生湖）の調査は大地震の直後から専門家により行われました。

昭和5年には東京帝国大学地震研究所の寺田寅彦先生達が二度測量調査に来たのが有名な出来事で、震生湖誕生が注目を集めました。

寺田寅彦先生は夏目漱石とも親交はあり随筆家であると共に物理学者、地震学者でもあります。特に「天災は忘れた頃にやってくる」は先生の残した有名な言葉です。

湖畔には先生の読んだ句碑が建っています。

これも震生湖を知る大切な碑です。

写真 寺田寅彦先生の句碑 →
山さけて 成しける池や 水すまし



丹沢大山ボラネット講演会のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度に中止となった青木雄司氏による講演会を、令和5年10月21日（土）に実施します。

また、当日は、加盟団体間の交流を図るため、いくつかの団体に活動状況のご報告等をいただく予定です。（内容については、世話人会で調整中です。）

詳細が決まりましたら、各団体あてご連絡いたしますので、各団体の会員に周知いただき、積極的な参加をお願いします。

- 実施日時 令和5年10月21日（土） 9時30分～12時
- 場 所 神奈川県自然環境保全センター（レクチャールーム）
- 講 師 青木 雄司 氏
（神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員、青山学院大学 非常勤講師、日本哺乳類学会 会員）
- テーマ 丹沢の哺乳類について

丹沢ボラネット瓦版2023年9月号（通巻115号）9月6日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五

丹沢ボラネット瓦版

2023年11月号 No.116



表丹沢林道(秦野市)の絶景ポイント！

令和5年度丹沢大山ボランティアネットワーク講演会・交流会

去る10月21日、コロナ禍で令和元年度を最後に開催できていなかった講演会・交流会を開催しました。

ボラネット各団体や、かながわ森林インストラクターの会、神奈川県フィールドスタッフの皆様など35名が、会場の自然環境保全センターレクチャールームに集まりました。

第1部交流会

小林代表のあいさつに続いて、第1部の交流会では、山口副代表の進行により、自己紹介を兼ねて参加したボラネットの各団体から1分間ずつの団体紹介を行い、続いて2団体から、詳しく活動報告がありました。

1団体目は、NPO 法人丹沢自然学校の五十嵐さんです。丹沢自然学校の発足の経緯や思い、エコツアーや定点観察を中心としたこれまでの活動実績について、設立趣旨書や写真をまじえてご報告いただきました。



丹沢自然学校 五十嵐さんの報告

2団体目は、丹沢環境推進会議の小林さんです。**発災 100 年を迎えた**

関東大震災による崩壊が沢をせき止めて生まれた震生湖（秦野市）近くの慰霊碑を紹介、南秦野尋常小学校（当時）の児童2名が今も行方不明であることや、現在の沢の状況などを地形図や現地の写真でご説明いただき、同会議で取り組んでいる丹沢検定の紹介もありました。関東大震災は人々の生命・財産に対する甚大な被害は忘れられない点ですが、丹沢の成り立ちや現在の状況を考えるうえでも、非常に大きな自然現象であることを改めて思い起こしました。



震生湖を生んだ大陥没 小林さんの報告

最後に、ポラネット以外からご参加いただいた、神奈川フィールドスタッフとかながわ森林インストラクターの会の紹介がありました。神奈川フィールドスタッフについては、自然環境保全センターから制度の概要と、それぞれが個人や団体メンバーとして様々な場面で活動されている旨の説明があり、かながわ森林イン

ストラクターの会からは久保さんから、会の活動や県の委員会への参画についても紹介があり、12月に開催予定の観察会のご案内もありました。

今日の交流会を機会に、ポラネットへの加入や各団体・個人の交流が進むきっかけとなることが期待される第1部でした。

2部 講演会

2部では青木雄司先生を講師に、「丹沢の哺乳類について」をテーマにご講演いただきました。

青木先生は、令和元年度まで、長年に渡り、神奈川県公園協会にお勤めになり、丹沢大山総合調査を始めとした、丹沢大山の自然環境保全に係る様々な調査等に関わってこられました。現在は、神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員、青山学院大学 非常勤講師、日本自然保護協会の自然観察指導員講師などとしても活躍をされています。ビジターセンターで普及啓発や調査等をご担当されていたことからフィールドなどでお会いしたことがある方も多いのではないのでしょうか。

(主な著書)

- 共著『丹沢自然ハンドブック』自由国民社,1997
- 共著『かながわの自然図鑑〈3〉哺乳類』有隣堂,2003
- 共著『身近な自然を見つめる目』日本自然保護協会,2006
- 共著『鳥との共存を目指して』中央法規,2010
- 共著『野生動物インタープリター』日本エコツーリズムセンター,2014



講師紹介

青木先生のお話

講演では、イントロに続いて、絶滅した種類、丹沢大山自然再生計画(特にニホンジカと外来種)、レッドデータ記載種などについて、写真、動画とユーモアを交えて、お話をいただきました。

以下、失礼を承知で先生のお話から印象に残った点などを記載します。筆

者の捉え方、解釈で記載している点、ご容赦ください。

○イントロ

・神奈川県ではこれまで 78 種の哺乳類が記録。海がありクジラやアザラシなどが記録され種類が多い。

・コウモリ、モグラ、ネズミを中心に、調査が十分とは言えず、これから新たな種が確認される可能性もある。

・ニホンリスはオニグルミを二つに割るが、その後どのように食べる？正解は二つを上下に重ね1つずつ食べる。

山で動物を見たら行動をよく観察しよう。

○絶滅種

・県内の絶滅種は4種。オオカミ、カワウソ、オコジョ、アシカ。

・オオカミは全国的に絶滅したとされる年の 12 年前が県内最後の記録。

・日本にはオオカミを信仰する文化があり、清川村など丹沢周辺でも魔除けなどとして、頭骨などを大切に保管している民家がある。かつては病気の際に骨を削って飲んだりしたとのこと。奥多摩の武蔵御嶽神社はオオカミが「狛犬」役。

・カワウソの日本最後の記録は四国。県内にも藤沢市瀬郷（おそごう）といった地名もあり、普通に生息していたと思われる。県内にはカワウソの標本が2つ（毛皮と頭骨）。カワウソの毛皮は、大正時代、大変な高値で取引されていた。

・オコジョは1例の目撃例のみの記録であり、確かな生息記録なのかを疑問視する意見もある。尾の先が黒いのが特徴。アシカは県内では明治中頃まで。



○丹沢大山自然再生計画（特にシカと外来種について）

・シカはもともと平野の動物だったが、平野の開発などで丹沢を中心に分布。箱根や小仏山地でも生息が広がっている。

・平成 15 年に第1期の計画ができ管理がスタート、現在第5期目。平成 15 年からの累積捕獲数は 38,220 頭。頭数ではなく密度を指標に管理する計画。

・アライグマは丹沢周辺でも普通に確認されるようになってきた。農作物被害や両生類を中心に生態系への被害が懸念される。三浦半島ではアライグマの捕獲を進めた結果、一度は減少したヤマアカガエルの個体数が増加した事例も。

・クリハラリス(タイワンリス)は、果樹や公園樹木への被害、住宅や電線への被害などがあるほか、在来種への影響も懸念される。県が防除計画を作る作業を進めている。県西部への分布拡大を防ぐ必要がある。毎年数千頭を捕獲している。

○レッドデータ記載種

・落葉した森林で、枝葉の部分にモサモサしたのが見えたらクマ糞かも。クマが木登りして餌を食べた痕跡。

・樹皮を剥ぐこともあり(動画紹介)、口と手で一生懸命皮を剥ぎ、内側を歯で削りながら舐めている。林業的には大きな被害。

・厚木市郷土資料館収蔵の県内唯一の骨格標本は、清川村で交通事故に遭った個体を青木先生が運んだもの。

・今年は全国的にも県内でもクマの出没情報が目立つ。県のホームページで県内情報は公表されているので確認を。
(「ツキノワグマ情報について」神奈川県庁ホームページ)(右の二次元バーコードから)

・クマに会わないために、クマ鈴やラジオなどで人間の存在を知らせることは大切だが、あまり気にしないクマも増えているよう。

このほか、ヤマネ、カヤネズミ、カワネズミ、ヒメヒミズ、キクガシラコウモリなどについても説明があり、楽しいお話にあつという間の1時間でした。

また、質疑応答でのやり取りでは以下のようなお話がありました。

- ・クマに餌をあげる人が今でもいる。野生動物との接し方を伝え続ける必要あり。
- ・生物を守る取り組みはとても難しい。それぞれ環境や対象種などが異なり、ある地域の成功例を別の生物や現場に適用できず、それぞれ考えないといけない。
- ・保全を考えるうえでも(そうでなくても)、何がどこにいるのかという、基礎的な情



子クマに餌をあげる人がいる



報を知るためには、正確な記録、特に標本や写真が重要。フィールドなどで動物の死体を見つけたら、拾うか(笑)、スケールを添えて写真を撮って博物館などに報告して(届けて)ほしい。

※死体の取り扱いには衛生面での注意が必要。

※カモシカ、ヤマネは拾得にあたり文化財保護法関係の届出が必要。

閉会のあいさつでは、小野副代表が、活動地の水田で見られるカヤネズミの巣について触れ、また、今後の団体間の交流に期待して会を閉じました。



クマ剥ぎの様子に釘付け！

丹沢大山ボランティアネットワーク講演会アンケート集計結果

1 今回の講演会・交流会の満足度を教えてください。

大変満足 77% やや満足 17% やや満足していない 3%(交流会)

2 1のように感じた理由

(講演会)オオカミのこと、クマの生態など動画や写真を交え、これまで知らなかったことを知ることができた など。

(交流会)他の団体の保全活動を知ることが出来てよかった。震生湖の話が参考になった。団体名簿が共有されるとよかった、など。

丹沢大山ボランティアネットワーク団体からの投稿

県内初の特認認定の「どぶろく」販売開始

NPO 法人四十八瀬川自然村

秦野市で保全活動をしている当会が運営する農家レストラン、「秦野どぶろく家」にて、丹沢の恵み、日本一の名水で「どぶろく」を仕込み、いよいよ登山者様に提供を始めます。

営業時間は土日の午後1時から5時です。

持ち帰りを希望の方は、量り売りの為、ペットボトルなど持参ください。

予約、問い合わせ 小野 070-6576-2134

※「秦野どぶろく家」は右上の二次元バーコードを参照。



2023・秋 環境登山パート2 報告

神奈川県山岳連盟・自然保護委員会

10月22日(日) 晴れ 参加者18名 一般参加者 ご夫婦2名、親子3名、1名(男)、青稜クラブ(相模原)3名、SC 丹沢秦野(トレランチーム)3名、JMSCA 自然保護委員会1名、岳連・自然保護委員会5名

コース 菩提峠駐車場 9:30～ヤマトタケルの足跡 10:30～植樹活動 11:00～昼食・ヤマトタケルの足跡 12:00～菩提峠駐車場 13:00

標高差 340m、往復2km。



報告 7:44 発ヤビツ峠行きバス、増発(先頭付近に並べた)は来たけれど 8 時 07 分発となり、菩提峠集合時間に間に合うかと…の状況になった。ヤビツ峠(8:42 着~8:48 発)から歩き出すと、一度ヤビツ峠に帰りのバス時刻をスマホで写しに戻って、ほどなくして車が止まった。県岳連自然保護委員長の S さんでした。同乗する。菩提峠(9:05 着)で下車、受付と委員長挨拶、司会からの作業概要説明、参加者の自己紹介、受領品と資材の荷分け(特に運ばず)、ラジオ体操後に 9:30 頃に出発した。ロープ場も一部ある。真鶴半島、初島、伊豆大島も見える。江の島はもっと左



の方で見えない。1回休みを入れてヤマトタケルの足跡に着く(10:27)。途中で、キク、アザミ、トリカブトを見た(下山時にセンブリらしき植物を写している参加者が居た)。M さんは大きいのはフジアザミと言っていた。ザックを置いて、苗とネットとポールを少し上の斜面に運んでくれた。運搬方は委員会の若手他が担当。都岳連から O さんも参加、小学生も居て総勢 18 名ほど。植え方の見本を F さんと I がすることになり、S さんのやり方の声が飛ぶのに従う。参加者がそれぞれに散らばって植えた。見本を含めて 2 種類 5~6 本ほどを植えた。M さんは他の女性と組んで植えた。11 時 40 分頃から足跡の前で昼食。記念写真を撮って 12 時 20 分ころ下山開始。13 時 00 分に菩提峠に戻り、苗包みや資材包装材の片付け、資材置き場小屋に収納、解散式などの後、13 時 18 分にまた S さんに同乗させてもらい秦野駅まで戻った(14:07)。

『植えながら、他の木や草などに負けずに育てばいいなと思い、それを見に来られればなお良いと思った』、感想です。I 塚より。

相模原の青稜クラブ I 塚さんの報告と感想を載せさせていただきました。I 塚さんは、この『環境登山』を開始したところから、ご参加いただいております。

岳連・自然保護委員会 伊藤篤子

丹沢ボラネット瓦版2023年11月号(通巻116号)11月30日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五

丹沢ボラネット瓦版

2024年2月号 No.117



自然環境保全センター自然観察園 Y28 杭からの風景 (令和6年1月17日撮影)



丹沢ミズヒ沢の大滝 (令和5年5月3日撮影)



滝周辺に生えているイワタバコ

2023 年度丹沢大山自然再生活動報告会

報告者 ボラネット世話人会 代表 小林 昭五



全体目標 人も自然も生き生きとした丹沢大山 奥山城 うっそうとしたブナ林の再生
↑写真 丹沢山ブナ林と木道 2022.5.4

関東大震災から100年

2023年度の丹沢大山自然再生活動報告会のテーマは

「**関東大震災から100年～歴史から見る丹沢～**」です。

震災当時の様子や現在まで続く自然環境への影響について、改めて長期的な視点でとらえ、今後の自然再生を考える契機とします。

プログラム

日時：令和6年1月21日（日）13:00～16:30

会場：横浜情報文化センター 6階 情文ホール

主催：丹沢大山自然再生委員会

共催：神奈川県自然環境保全センター

第一部 活動・研究報告

13:10～13:30 報告① 丹沢大山自然再生のこれまでの道のり
丹沢大山自然再生委員会 勝山 輝男

13:30～13:50 報告② 丹沢中津川流域における崩壊地の
46年間の推移

日本大学生物資源科学部森林学科 園原 和夏

13:50～ 14:10 報告③ 三ノ塔の震災復旧工事箇所の植樹活動

NPO 法人丹沢自然保護協会 中村 道也

第二部 シンポジウム

14:25～ 15:00 基調講演 関東大震災と土砂災害

一般財団法人砂防フロンティア整備機構 井上 公夫

15:00～ 15:25 話題提供① 震災直後の相模大山の土石流とその復興

－ 災害の記録 －

伊勢原市教育委員会 諏訪間 伸

15:25～ 15:50 話題提供② 青根地区の伐木事業と関東大震災

－ 大倉組伐木記念碑をめぐって －

相模原市立公文書館 井上 泰

15:50～ 16:30 総合討論

右写真→

再生委員会の鈴木先生が西丹沢で撮った写真と震災後の崩壊跡を残している昭和初期の同じ場所の写真です。

大正12年9月1日 大地震後
丹沢の約八割は崩壊して真っ白に見えたという証言もあります。

昭和初期にも崩壊地が広域に見えたのが現在ではうっそうとしたブナ林等自然林が回復していることが一見して理解ができました。

日大森林学科の園原さんの研究発表からも裏付けられました。

46年間の地形的崩壊地の様子と緑の復活関係はどのような仕組みか分かりました。

4年ぶりの会場開催でした。

参加申込者130名 参加者98名
当日の天気が影響したと思えます。

アンケートはおおむね好評でした。

普段は聞くことができない話を聞いた。(多数)

今回は最後の総合討論が会場と登壇者が一体になって考え会場からも意見が出た事が特徴であり、報告会の成功へとつながった。

ボラネットからは丹沢自然学校が質問や意見を述べ討論を深化させていたのが注目に値しました。

関係の皆様お疲れ様でした。



↑写真 伊勢原市教育委員会 諏訪間 伸 発表資料

丹沢大山ボラネット加盟団体からの投稿

丹沢環境推進会議 議長小林 昭五

続 関東大震災から100年

丹沢大山ボラネット瓦版115号に引き続き、探険活動の成果を活動報告します。
丹沢環境推進会議は関東大地震により震生湖誕生100年を記念し震生湖の地質学的、
地理学的、調査研究をしました。

震生湖は115号でも触れたように大磯丘陵の北西部(渋沢丘陵)の秦野市と中井町に
あります。市木沢(いちぎざわ)の最上流の源流が震災により震生湖になりました。

右地図 震生湖周辺の地形図

秦野市教育委員会

震生湖誕生100周年記念誌より

市木沢の南斜面が250mに渡り崩落し
震生湖(堰止湖)誕生しました。

赤い部分 地滑り崖

緑の部分 崩壊した土砂が沢を

塞いだ堰止め部分



震生湖周辺(国土地理院地図より作成)

↓写真 現在の崩壊地跡(R5. 12. 3)



現在の堰止め部分は太陽光発電所



昭和9年・崩壊地を遠足で見学(記念誌写真より)

大磯丘陵(渋沢丘陵)市木沢付近の地質
現在の市木沢源流は太陽光発電所の東側下方
が源流になっています。

右写真の市木沢の源流最後の急勾配の土手を
登り切ったところに太陽光発電所が見える。

渋沢丘陵の地質

地質学的には新生代 第4期 更新世
後期更新世(13万年以前)の地層を主としている。

箱根や富士火山の噴出物など堆積しました。

丘陵は、隆起を続けました。その結果浸食作用が激しくなり、市木沢等では溪谷が
険しく地震、豪雨等により地滑りや陥没、崩壊が多か所で起こってきました。

渋沢丘陵周辺に桁窪など窪の地名があることから崩壊が起こりやすく陥没が多い丘陵で
あることが分かります。

市木沢の探検、地層を研究

1 東京軽石層

太陽光発電所まで100mの右岸に
露頭があります。浸食の窪地が有る。

→露頭全体写真 平行に地層がある。

右写真 部分拡大写真

白い部分(60cm)、東京軽石層(TP)

約5.5万年前の箱根火山噴出物



R5. 12. 3撮影



R5. 12. 3撮影

上の暗い紫の地層、東京軽石流堆積物(TPf1) 高温の火砕流が堆積したもの。

この東京軽石層(TP)が滑り台になり上部地層が大崩壊して震生湖が誕生したと考える。
ボーリング等の調査により判明しました。

2 震生湖逆断層 1 TP写真の70m下流 市木沢には断層がたくさんあります。

左写真 全体

右写真 部分拡大

下の白い部分を
含む地層群

→新しい地層

上の赤茶色部分を
含む地層群

→古い地層



下の地層が垂直なのは、断層面が激しくこすられ上を向いてしまった。 R5. 12. 3撮影

上部地層 火山灰を主にするローム層(古い地層)

下部地層 白色の淡ピンクの軽石層が目立つ。Tm2と名付けられています。(新しい地層)

NPO 法人 野生動物救護の会さまが最近の活動状況を報告して下さいました。

NPO 法人 野生動物救護の会 事務局

自然発見クラブ「身近な野鳥のための巣箱づくり」

今年も2月17日に、神奈川県自然環境保全センター・レクチャールームで自然発見クラブ「身近な野鳥のための巣箱づくり」を開催しました。当日の参加者は大人と子供合わせて14名、運営スタッフは理事長、副理事長、事務局長ほか会員1名でした。



最初に、人間の身近に生息している樹洞繁殖性の野鳥にとって、子孫を残すために樹洞の代わりとなる巣箱が重要であることを、スライドを使って簡単に説明しました。その後、全員で巣箱を作成しました。釘と金づちを持って真剣な表情で巣箱を組み立てて、絵の具やマジックペンを使って絵を描いたり、色を塗ったりして楽しんでもらえたようです。



最後に巣立ヒナの誤認保護に関するお話をしました。参加者全員が熱心に話を聞いてくれました。今回の巣箱づくりをきっかけに、丹沢大山に生息する野鳥たちに興味をもって、自然環境の保護活動に参加してくれる人が増えていくことを願っています。

この活動は、丹沢の緑を育む集い「ボランティア団体活動助成事業」からの助成金を使って実施いたしました。



朽ちかけた倒木に生えるきのこ（令和6年1月17日）
自然環境保全センターにて

Ⅱ 会員団体活動掲示板

| | |
|------|--|
| 団体名称 | 神奈川県勤労者山岳連盟 |
| | <p>神奈川県勤労者山岳連盟は国民の登山要求の高まりの中で、「安く、楽しく、安全に」を合言葉に 1968 年に結成し、半世紀を越えた。登山が自然をフィールドとするスポーツである以上、常に自然との共生や遭難事故防止の課題を伴っている。私たちは自らの登山技術や知識を高め、仲間を迎え入れ、登山活動の一層の充実と発展を図る。また、1991 年に自然保護委員会を設立し、丹沢をはじめとする自然保護活動にも力を尽くしてきている。</p> <p>【設立年月日】 1968 年</p> |
| 団体情報 | <p>【代表者】 渡辺 三男</p> <p>【会員数】 535 名</p> <p>【ホームページ】 http://www.k-rouzan.net/</p> |
| 活動内容 | <p>2023 年活動報告</p> <p>●「第 44 回丹沢クリーンハイク」</p> <p>2023 年 5 月 27 日水質調査、28 日クリーンハイクを実施。</p> <p>参加団体は 13、参加者 112 名。ゴミ回収は 85.45 kgであった。</p> <p>クリーンハイクの小旗をつけて清掃する姿に、増加している青年登山者、家族連れなどが興味と関心をもってくれ、マナー啓発は大切な活動と再認識する。</p> <p>●活動の幅を広げる。</p> <p>コロナ禍後、活動の幅を広げている。①植樹活動に参加。②丹沢の山小屋に泊ろう企画。③身近な自然、里山歩きと自然観察などの取組を進めている。</p> <p>●日本勤労者山岳連盟・関東ブロック自然保護集会を開催</p> <p>集会は 2023 年 11 月 18 日～19 日、横浜自然観察の森で 35 名の参加で実施。</p> <p>横浜最大の自然、瀬上沢の貴重な里山の自然観察会を現地自然保護団体の協力で、身近な自然を守る活動の重要性を学ぶことができた。</p> <p>●東日本大震災の被災地支援活動</p> <p>2011 年 9 月から 13 年間、支援活動を継続している。</p> <p>2023 年 5 月、11 月の 2 回、被災地宮城県石巻を訪問し、「石巻市民植樹」に参加し、交流を深めている。支援活動は当初のガレキ撤去などのハードな支援から、植樹活動などのソフトな活動に移行している。また、被災地の変化と課題を現地の方々の案内で学ぶことができ、これからも継続。また、原発事故の福島にも出向いて、現地視察を続けている。</p> |
| 連絡先 | <p>【担当者】 磯部 津輝子 (090-6104-4514)</p> <p>【住 所】 〒221-0045 横浜市神奈川区神奈川 2-14-16 トーリックビル 3 階</p> <p>【電 話】 045-534-5553 (新日本スポーツ連盟神奈川県連盟取次)</p> <p>【F A X】 045-534-5554</p> <p>【メール】 http://www.k-rouzan.net/</p> |

| | | |
|------|--|--|
| 団体名称 | 横浜わらび山の会 | |
| 設立目的 | <p>自然を通じて会員相互の親睦をはかり、「生涯登山」を合言葉に楽しい山歩きやハイキングを目的としています。日帰り山行は元より、夏の山行、街中ハイキングから神社、仏閣巡り、温泉、花巡り、障害者登山への積極的参加などを通して、自然を愛し、自然保護に力を入れ、自然と親しみながら、「和やかに」「楽しく」「美しく」、いつまでも元気でいられるよう行動しています。</p> <p>会名「わらび」は、理念のなかの「和やかに」「楽しく」「美しく」の和・楽・美を合わせて「わらび」と命名しました。</p> <p>【設立年月日】1990年3月</p> | |
| 団体情報 | <p>【代表者】 武智 清史</p> <p>【会員数】 28名 50才～70才代が中心</p> <p>【ホームページ】 横浜わらび山の会</p> | |
| 活動内容 | <p>10月28日（土）</p> <p>丹沢の緑を育む集い実行委員会主催の植樹事業に7名参加。</p> <p>植樹の場所は菩提峠エリア</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div> | |
| 連絡先 | 【担当者】 長谷川 隆 | |
| | 【住所】 - | |
| | 【電話】 - | |
| | 【FAX】 - | |
| | 【メール】 BRB35371@nifty.com | |

| | | |
|------|--|--|
| 団体名称 | 神ノ川ヒュッテ管理委員会 | |
| 設立目的 | <p>山岳愛好者を中心とする一般公衆に対して、北丹沢地域の山岳活動に関する事業を行い、もって環境保護・スポーツ振興・災害救助に寄与することを目的とする。</p> <p>自然保護活動（広河原植林事業、東海自然歩道監視、整備等）の基地及び山岳スポーツ（トレイルレース）の基地として活動している。</p> <p>【設立年月日】 1993年 4月 1日</p> | |
| 団体情報 | <p>【代表者】 杉本 憲昭</p> <p>【会員数】 神ノ川ヒュッテ友の会 30名</p> <p>【ホームページ】 http://kitatan.com/kantop</p> | |
| 活動内容 | <p>2023</p> <p>4月16日（日）北丹沢神ノ川流域山開き・折花神社での本祭行事</p> <p>9月 2日（日）茅ヶ崎山岳協会70周年記念行事開催および神の川周辺登山道清掃及び点検活動</p> <p>※神ノ川林道は6月1日よりようやく開通しましたが、11月18日に法面崩落があり再度通行止めとなりました。</p> <p>活動場所 北丹沢山城（特に神の川、広河原、鐘撞山を中心とした地域）</p> <p>神の川ヒュッテ友の会会長 加藤 博恵</p> | |
| 連絡先 | 【担当者】 杉本 憲昭 | |
| | 【住所】 相模原市緑区小淵1545-1 | |
| | 【電話】 042-687-4011 | |
| | 【FAX】 042-687-3980 | |
| | 【メール】 kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp | |

| | | |
|-------------------------|--|----------|
| <p>団体名称</p> <p>設立目的</p> | <p>NPO法人北丹沢山岳センター</p> <p>藤野町牧野財産管理会の委託を受け、健全なヒュッテの経営を行う。 山岳愛好者を中心とする一般公衆に対して、北丹沢地域の山岳活動に関する事業を行い、もって環境保護・スポーツ振興・災害救助に寄与することを目的とする。</p> <p>【設立年月日】 2003年 4月 11日</p> | |
| <p>団体情報</p> | <p>【代表者】 杉本 憲昭</p> <p>【会員数】 運営委員会20名 6団体80名</p> <p>【ホームページ】 http://kitatan.com/</p> | |
| <p>活動内容</p> | <p>2023</p> <p>4月16日(日) 北丹沢神の川流域山開き・折花姫神社での本祭行事</p> <p>6月25日(日) 国道20号線クリーン活動</p> <p>9月 2日(日) 茅ヶ崎山岳協会70周年記念行事開催および 神の川周辺登山道清掃及び点検活動</p> <p>活動場所 北丹沢山城、陣馬山城 (特に神の川、広河原、蛭ヶ岳、姫次を中心とした地域)</p> | |
| <p>連絡先</p> | <p>【担当者】 杉本 憲昭</p> | <p>○</p> |
| | <p>【住所】 相模原市緑区小淵1545-1</p> | <p>○</p> |
| | <p>【電話】 042-687-4011</p> | <p>○</p> |
| | <p>【FAX】 042-687-3980</p> | <p>○</p> |
| | <p>【メール】 kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp</p> | <p>○</p> |

| | |
|------|---|
| 団体名称 | 特定非営利活動法人 丹沢自然保護協会 |
| 設立目的 | 丹沢の自然保護に向けた活動と情報発信を通じて、丹沢の自然保護に寄与することを目的とする。 【設立年月日】 1960年 |
| 団体情報 | 【代表者】 中村 道也 【会員数】 450名 【ホームページ】丹沢自然保護協会 で検索してください |
| 活動内容 | <p>計画した事業は、天候等により実施日を変更したものを含め全て予定通り実施することができた。</p> <p>1. 緑の再生事業</p> <p>荒廃地や裸地に主に動物のえさになる実のなる広葉樹等の植栽を行い、動物たちの生息域が孤立しない様、緑地帯で生息域をつなぐ緑のコリドー作りを行う。</p> <p>1) 春の植樹</p> <p>実施日：4月16日(日) 菩提峠 参加者：160名 植樹数：900本</p> <p>2) 秋の植樹</p> <p>実施日：10月28日(土) 菩提峠 参加者：230名 植樹数：1000本</p> <p>3) 下草刈り</p> <p>菩提峠植栽地は、以前植栽した場所より標高が低いため下草の生育が良く、苗が下草に埋没するのを防ぐため下草刈りを行った。</p> <p>実施日：6月18日(日) 菩提峠 参加者：25名 6月19日(月) 菩提峠 参加者：11名</p> <p>2. 森の学校</p> <p>子供たちの合宿による自然観察や実地体験を通して、楽しさの中に様々な形で自然環境について学ぶ。</p> <p>1) 春の教室</p> <p>溪畔林での学習を通して動植物の命のつながりを実感することが出来ました。</p> <p>実施日：3月28日～30日 参加者：50名</p> <p>2) 夏の教室</p> <p>どんな小さな生き物も、力いっぱい生きているをテーマに、生命のつながりについて考えました。</p> <p>実施日：8月20日～22日 参加者：45名</p> <p>3) 冬の教室</p> <p>私たちの丹沢、森と生き物たちをテーマに、冬の溪畔林学習、動物の糞分析など生命のつながりについて考えました。</p> <p>実施日：12月27日～29日 参加者：53名</p> <p>3. 丹沢フォーラム</p> <p>丹沢の抱える問題や、行政事業として実施されている丹沢再生や水源林施業地を訪ね、担当職員、専門講師による解説を受け事業について学ぶ。</p> <p>1) 春の丹沢フォーラム</p> <p>里地・里山の再生と利用(身近な森でふるさと再発見)をテーマに伊勢原塔の山緑地および名古木棚田を訪ね、講師の解説を受けながら歩きました。</p> <p>実施日：11月12日 参加者：30名</p> <p>4. 丹沢を歩く</p> |

山頂を目指す登山に限らず、丹沢に精通する会員が様々な丹沢の魅力を案内し、併せて自然保護の啓発活動を行う。

1) 三国山の新緑のブナ林を歩く

三国山の巨木の残っているブナの原生林（緑の回廊）を歩き、最後に天狗ブナを訪ねました。

実施日：6月10日 参加者：10名

2) 晩秋の高松山とはなじよろ道

2011年に「虫沢古道を守る会」が復活整備した「はなじよろ道」から高松山へ、帰路は「高松古道」・「水落山古道」を里山を楽しみながら歩きました。

実施日：11月23日 参加者：7名

3) 冬枯れの高取山～仏果山

宮ヶ瀬ダム湖畔の高取山～仏果山を歩きました。高取山登山道でシモバシラの花を見ることが出来ました。丹沢山塊、眼下の宮ヶ瀬湖等360度の展望を楽しみました。

4) 櫟山～寄ロウバイ園を訪ねる

表丹沢県民の森への林道が通行止めのため予定を変更して寄～櫟山を往復した。途中間伐材の搬出道の状況を見たり、寄ロウバイ園を訪ね、甘い香りが広がるロウバイ園でお花見散策をしました。



植樹の受付の様子



子供たちも頑張ります



フォーラム 堂平のブナ林で説明を受ける



森の学校 水生昆虫の勉強

連絡先

【担当者】山形 輝夫

【住所】-

【電話】-

【FAX】-

【メール】teruoyamagata@ybb.ne.jp

| | | |
|------|--|--|
| 団体名称 | 蛭ヶ岳山荘委員会 | |
| 設立目的 | <p>神奈川県より譲渡された、民間経営の山小屋としてお客様が快適に過ごせる山小屋を目指して営業努力している。山岳愛好者を中心とする一般登山者に対して、北丹沢地域の山岳活動に関する事業を行い、もって環境保護・スポーツ振興・災害救助に寄与することを目的とする。</p> <p>【設立年月日】 1998年 4月 1日</p> | |
| 団体情報 | <p>【代表者】 杉本 憲昭</p> <p>【会員数】 蛭ヶ岳山荘友の会 50名</p> <p>【ホームページ】 http://kitatan.com/hirutop</p> | |
| 活動内容 | <p>2023</p> <p>4月11日 蛭ヶ岳 春・夏用の物資荷上げ</p> <p>10月11日 蛭ヶ岳 秋・冬用の物資荷上げ</p> <p>5月 ボランティアによる蛭ヶ岳山荘の階段補修作業を実施</p> <p>6月 " 布団干し "</p> <p>活動場所 北丹沢山城（特に蛭ヶ岳、神ノ川、姫次を中心とした地域）</p> <p>蛭ヶ岳山荘友の会会長 樋詰 順郎</p> | |
| 連絡先 | 【担当者】 杉本 憲昭 | |
| | 【住所】 相模原市緑区小淵1545-1 | |
| | 【電話】 042-687-4011 | |
| | 【FAX】 042-687-3980 | |
| | 【メール】 kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp | |

| | | |
|------|--|--|
| 団体名称 | NPO 法人 みろく山の会 | |
| 設立目的 | 健全かつ安全な登山、ハイキングに対する事業を行いスポーツの振興に寄与する 目的で設立 【設立年月日】1983年4月設立・2000年3月にNPO法人としての認証を受ける | |
| 団体情報 | 【代表者】小松崎健夫 【会員数】820名（2024.1.31現在） 【ホームページ】 https://npo.mirokuyamanokai.org/ | |
| 活動内容 | <p>みろく山の会では、会山行を月50～80回、年間800回以上を計画しています。2022年度は、計画回数813回、実施回数647回（実施率80%）、参加者数のべ10,148人の実績でした。</p> <p>山行は180名ほどのリーダーが計画を立て、初心者から経験者まで参加できるように、公園歩き、近郊の低山、アルプス等の縦走、ロングトレイル、クライミング、沢登り、雪山、スキー等を実施しています。また系統だった学習山行にも力を入れて、会員皆が自立した登山者を目指せるように工夫しています。</p> <p>当会の三大大行事としては、総会・清掃登山・みろく祭があります。その中で自然保護活動の一環として実施している「清掃登山活動」は会創設以来継続して取り組んでおります。今年度も5月13日に大倉周辺で12コースを設定して計画しましたが、残念ながら雨天中止となりました。</p> <p>昨年度、創立40周年記念行事を計画しましたが、コロナ禍の影響で中止となり今年度に延期し、10月21～22日「みろく創立40周年記念集中登山 in 北八ヶ岳・霧ヶ峰」を総勢215名参加で実施しました。</p> <p>また丹沢大山再生計画の第一期から携わっている大倉尾根の県民協働型登山道補修は、毎月1回10数名の会員の協力で登山道の老朽化した階段や水切りの補修を行って登山道の保全、登山者の安全確保に努めています。</p> | |
| 連絡先 | 【担当者】金井朝子（自然保護部長） | |
| | 【住所】横浜市西区戸部本町41-4 第1暁ビル2F | |
| | 【電話】045-317-2369 | |
| | 【FAX】046-317-2365 | |
| | 【メール】- | |

| | | |
|------|--|--|
| 団体名称 | NPO 法人 野生動物救護獣医師協会神奈川支部 (WRV 神奈川支部) | |
| 設立目的 | 野生動物の救護活動を通じ、神奈川県における自然環境保全に寄与することを目的とする 【設立年月日】 2003年7月5日 | |
| 団体情報 | 【代表者】 皆川康雄 【会員数】 約10名 神奈川県野生動物リハビリテーター認定者：約160名 【ホームページ】 https://wrv-kanagawa.net/ | |
| 活動内容 | <p>丹沢大山の自然環境保全に直接かかわる活動は特にないが、県内の野生動物救護施設を中心に県内全域で以下の活動をしています。</p> <p>※今年度は鳥インフルエンザの影響を受け、一部活動できないものものもありました</p> <p>①傷病野生動物の救護と野生復帰 ②傷病野生動物の救護に従事できる専門的なボランティア『神奈川県野生動物リハビリテーター』を県の協力を得て養成及び資格認定 認定された野生動物リハビリテーターは、県自然環境保全センター、横浜市立動物園（野毛山・金沢・よこはま動物園ズーラシア）及び川崎市夢見ヶ崎動物公園にて活動 ③大学や専門学校を対象に野生動物リハビリテーター人材の育成のための専門家教育 ④次代を担う子どもたちに生命や自然の大切さ、人と野生動物との共生のための環境教育 ⑤県民に野生動物救護に対する理解を深めてもらうための普及啓発 ⑥救護原因の究明や予防対策のための調査研究</p> | |
| 連絡先 | 【担当者】 皆川康雄 | |
| | 【住所】 横浜市神奈川区六角橋 5-17-15 皆川ハイツ 102 | |
| | 【電話】 045-548-4744 | |
| | 【FAX】 045-548-4745 | |
| | 【メール】 kanagawa@wrvj.org | |

| | | |
|------|--|--|
| 団体名称 | 町田グラウス山の会（日本勤労者山岳連盟所属） | |
| 設立目的 | <p>登山を市民の健全なスポーツ・レクリエーションとして広め、登山の知識技術向上と安全山行を推進するとともに。山岳自然保護活動などを行う。</p> <p>【設立年月日】 1984年1月</p> | |
| 団体情報 | <p>【代表者】 萱沼 隆</p> <p>【会員数】 170名</p> <p>【ホームページ】 http://machida-grouse.com/</p> | |
| 活動内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・丹沢をはじめ、全国各地及び海外での登山活動を、年間約1000回行っている。内容はハイキング、縦走/岩稜縦走、山スキー、沢のぼり、クライミング、海外登山、スケッチ山行、自然観察山行など多岐にわたり、四季を通じオールラウンドの活動をしている。 ・春秋には、一般市民に対して公開の楽しい山登り講習会を開き、登山の楽しさを知っていただく機会を設けている。 また毎年5月には、障がいを持つ方たちとの交流ハイクが恒例となっている。 ・10月には10日間あまりのクリーンハイク期間を設け、会員各自がそれぞれの山行において登山道や周辺の清掃活動を行っている。 | |
| 連絡先 | 【担当者】 森島眞知子 | |
| | 【住 所】 町田市山崎町 1356 シーアイハイツ E-902 | |
| | 【電 話】 042-813-3171 | |
| | 【F A X】 042-813-3171 | |
| | 【メール】 ruriboshi_asahi@outlook.jp | |

| | | |
|------|--|--|
| 団体名称 | 特定非営利活動法人 野生動物救護の会 | |
| 設立目的 | 野生動物の保護及び救護に関わる活動を通じて、自然環境と生物多様性の保全に貢献することを目的とする。 モットーは「一頭一羽でも多くの野生復帰を目指して！」 【設立年月日】平成18年10月2日 | |
| 団体情報 | 【代表者】 渡辺 優子 【会員数】 61名 【ホームページ】 http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp | |
| 活動内容 | <p>基本は神奈川県自然環境保全センターにおける野生動物救護ボランティアとしての活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月～6月 ブナの森ギャラリー展示「にゃ～ちゃんの冒険」 ・ 5月27日 会報誌「RUNNER 37」発行 ・ 6月25日 第16回 特定非営利活動法人野生動物救護の会 定期総会開催 ・ 6月～1月 環境教育活動 はだのエコスクール 秦野市内の小学校等にて (本町小学校、北幼稚園、南小学校、山辺保育園、若木保育園、堀川小学校) ・ 9月24日 よこすか動物フェスティバルかながわ 展示参加 ・ 10月22日 動物フェスティバルかながわ in あつぎ 展示参加 ・ 10月29日 もりみず交流会参加 ・ 11月3日 秦野市民の日 展示参加 ・ 1月21日 2023年度丹沢自然再生活動報告会への参加 ・ 1月28日 探鳥会開催 ・ 2月8～12日 第23回 さがみ自然フォーラム 展示参加 ・ 2月17日 自然発見クラブ 野鳥の巣箱づくり 開催 <p>通年調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「足環プロジェクト」 ・ 秦野市立図書館衝突調査 ・ フクロウなどの巣箱調査 ・ 神奈川県自然環境保全センター野外施設での「野生動物痕跡調査」 <p>そのほか羽根標本作成などを行っている また、HPやブログ更新(随時)も行っている</p> | |
| 連絡先 | 【担当者】 渡辺 優子 | |
| | 【住所】 秦野市戸川 1086-4 | |
| | 【電話】 0463-75-1830 | |
| | 【FAX】 0463-75-1830 | |
| | 【メール】 wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp | |



2023 年度開催 自然発見クラブの様子



環境教育 はだのエコスクールの様子

| | |
|------|--|
| 団体名称 | 丹沢環境推進会議 |
| 設立目的 | 神奈川県内に於いて、丹沢大山地域の自然環境保護保全活動を行う。 2017年4月10日任意団体として設立 |
| 団体情報 | 代表者 小林 昭五 会員数 10名 機関誌 丹沢環境推進会議だより 年3回発行 |
| 活動内容 | <p>(1) 神奈川県内に於いて、丹沢大山地域の環境保護活動、啓発活動、人材育成活動を行った。</p> <p>(2) ー関東大震災100年ー 震生湖の誕生と地形的、地質学的探険探求活動(三回) 第一回8月16日 第二回8月22日 第三回12月3日</p> <p>(3) 丹沢大山地域の環境美化活動を行った。</p> <p>(4) 丹沢大山地域の環境検定問題づくりを行った。</p> <p>(5) 目的達成のため他団体と協力連携してボランティア活動を行った。 水質調査、美化活動に協力した。</p> <p>(6) 丹沢大山自然再生委員会と協力して啓発活動参加 4月16日 丹沢まつり 10月7日、8日 ワールドフェスタ横浜</p> <p>→写真 震生湖市木沢の大断層 下の垂直の地層新しい地層 上の地層 古い地層 このように市木沢は断層が多く またローム層が堆積して出来ている沢なので地震等により、地滑り大崩壊が 起こりやすい。</p>  <p>関東大地震で市木沢が崩壊し震生湖が誕生しました。</p> |
| 連絡先 | 担当者 小林 昭五 |
| | 住 所 秦野市東田原200-109 |
| | 電 話 0463(82)1992 |
| | FAX 0463(82)1992 |
| | メール a.kobayashi4246@nifty.com |

Ⅲ 世話人会の活動報告

令和5年度丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会の活動報告書

1 世話人会の開催

(1) 臨時世話人会、(令和4年度会計監査及び会計引き継ぎ)

- 実施日 令和5年4月22日(土)
- 時間 10:00~12:00
- 場所 自然環境保全センター野外テーブル
- 出席者 6名
- 内容
- 1 令和5年度のボラネット交流会について
 - 2 当面の事業について(水質調査)
 - 3 総会へ向けて 会計監査
 - 4 その他 当面の課題等

(2) 第1回

- 実施日 令和5年6月7日(水) 10:00~12:00
- 場所 自然環境保全センターワーキングルーム
- 出席者 5名
- 内容
- 1 令和5年度世話人会日程等計画、役割について
 - 2 丹沢ボラネット瓦版の発行、内容、役割分担等
 - 3 丹沢講演会、交流会について
 - 4 その他
 - ・ ボラネット及び世話人会等の方向、あり方について
 - ・ 各世話人より報告等

(3) 第2回

- 実施日 令和5年9月6日(水) 10:00~12:00
- 場所 自然環境保全センターワーキングルーム
- 出席者 6人
- 内容
- 1 丹沢講演会について
 - ① 全体の流れと交流部分について
 - ② 役割分担等について
 - 2 ボラネット会費納入の現状と対策について
 - 3 その他 瓦版116号等について

(4) 第3回

- 実施日 令和5年12月6日(水)
- 場所 自然環境保全センターワーキングルーム
- 出席者 5名

- 内 容
- 1 令和6年度世話人会の構成に向けて
 - 2 令和6年度の行事事業計画について
 - 3 ボラネット瓦版117号について
 - 4 その他
 - ・ アンケート集計結果等・報告事項

(5) 第4回

- 実施日 令和6年3月6日(水) 10:00~12:00
場 所 自然環境保全センターワーキングルーム
出席者 4名
内 容
- 1 令和6年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会に向けて
 - 2 丹沢講演会・交流会について
 - 3 その他

2 関係団体との協働

丹沢大山ボランティアネットワークから世話人会代表が各委員会へ出席

(1) 丹沢の緑を育む集い実行委員会総会

- 日 時 令和5年7月12日(水) 議案提出 7月26日(水)決議
方 法 書面開催
内 容
- 第1号議案 令和4年度事業報告について
 - 第2号議案 令和4年度決算報告について
 - 第3号議案 令和5年度事業計画について
 - 第4号議案 令和5年度予算について

(2) 丹沢大山自然再生委員会関係

ア 第67回(令和5年度)秦野丹沢まつり

- 日 時 令和5年4月16日(日)
場 所 県立秦野戸川公園・秦野市立西中学校
内 容 丹沢大山自然再生の普及啓発活動

イ 丹沢大山自然再生委員会 第41回幹事会

- 日 時 令和5年5月22日(月)
方 法 オンライン会議
内 容
- ① 第23回丹沢大山自然再生委員会総会の資料について
 - ② その他 各専門部会の報告等

ウ 第23回丹沢大山自然再生委員会総会

- 日 時 令和5年6月29日(木) 14:00~16:30

場 所 産業貿易センターB102会議室

- 内 容 ① 令和4年度事業実績・決算について
② 令和5年度事業計画・予算について
③ 役員、幹事の改選について
④ 各専門部会からの報告
⑤ 令和5年度丹沢大山自然再生活動報告会について
⑥ 令和5年度以降の委員会の活動の検討
⑦ その他

エ 県民事業専門部会 第37回普及啓発検討チーム

日 時 8月31日（木）10:00～12:00

場 所 県民センター1503会議室

内 容 ワールドフェスタ横浜等への取り組みについて

オ 丹沢大山自然再生委員会 幹事会

日 時 9月5日（火）10:00～12:00

方 法 オンライン会議

- 内 容 ① 丹沢大山自然再生活動報告会について
② 新規入会について（特定非営利活動法人伊勢原森林里山研究会）
③ 調査・研究助成金事業の応募状況と審査
④ その他

カ ワールドフェスタ2023横浜

日 時 令和5年10月7日（土）8日（日）

場 所 横浜山下公園

内 容 丹沢大山自然再生の普及啓発活動

キ 2023あつぎ環境フェアー

日 時 令和5年9月22日（日）10:00～15:30

場 所 厚木市中央公園

内 容 丹沢大山自然再生の普及啓発活動

ク 2023年度丹沢大山自然再生活動報告会

日 時 令和6年1月21日（土）13:30～15:30

場 所 横浜情報文化センター6階 情文ホール

- 内 容 第1部 活動・研究報告
第2部 シンポジウム 基調講演 総合討論

ケ 丹沢大山自然再生委員会第44回幹事会

日 時 令和6年3月12日（火）10:00～12:00

方 法 オンライン会議

- 内 容 ① 第25回再生委員会総会の開催について
② 令和6年度県民部会の共催・後援イベントについて
③ 令和6年度の丹沢大山自然再生活動報告会について
④ 令和6年度行事予定について
⑤ その他
総会までの予算執行について

コ 県民事業専門部会 第38回普及啓発検討チーム

日 時 令和6年3月26日（火）10:30～12:00

場 所 自然環境保全センター 1階レクチャールーム

- 内 容 ① 第68回秦野丹沢まつり関係への取り組み
② 令和6年度イベントへの参加について
③ その他

丹沢大山ボランティアネットワーク会則

(名 称)

第1条 本組織は、丹沢大山ボランティアネットワーク(以下「ネットワーク」という。)と称する。

(目 的)

第2条 ネットワークは、丹沢大山で自然環境に関する活動を実践しているボランティア団体の自主的な連携を図り、行政とのパートナーシップのもとで丹沢大山の自然環境の保全に関する活動の推進を図ることを目的とする。

(会 員)

第3条 会員は目的に賛同するボランティア団体により構成する。

2 入会及び退会は、所定の書面による届け出とする。

(活動内容)

第4条 ネットワークは、次の活動を行う。

- (1) ネットワークづくりの推進に必要な活動の実施
- (2) 会員への情報提供および会員相互の情報交換の推進
- (3) その他、ネットワークの目的に合致する活動

(世話人会)

第5条 ネットワークの運営のため、世話人会を設ける。

2 世話人は総会によって選出し、10名程度とする。

3 世話人会に代表1名と、副代表2名を置き、選出された構成員の中から互選により定める。

4 世話人会は代表が招集し、議長となる。

5 副代表は代表を補佐し、代表に事故ある時は、その職務を代行する。

6 世話人の任期は2年とする。ただし、再選は妨げない。

7 世話人会は、必要に応じ開催する。

(世話人会の職務)

第6条 世話人会は次の事項を行う。

- (1) 会員間の連携の推進に必要な連絡、調整
- (2) 各種情報の収集、分析
- (3) 行政とのパートナーシップの推進のため必要な神奈川県自然環境保全センターとの協議
- (4) 総会に付議する議案に関すること。
- (5) その他、ネットワークの運営のため必要な事項

(総会)

第7条 総会は、世話人会代表が召集する。

2 総会は、年1回以上開催する。

- 3 議事は、出席者の過半数をもって決定する。
- 4 議決権は1団体で1票とする。

(事業年度)

第8条 事業年度は、4月1日から翌年3月31日迄とする。

(会費)

第9条 会費は毎年4月1日から翌年3月31日迄の1年間とし、年間2,000円とする。

(庶務)

第10条 丹沢大山ボランティアネットワークの必要とする費用は、会費および助成金、その他の収入をもってこれに充当する。

- 2 会計担当者を2名以内置く。
- 3 監事を2名置き、会務および会計を監査する。
- 4 ネットワークの庶務は、当分の間、神奈川県自然環境保全センターが協力して行う。

(その他)

第11条 この会則に定めるものの他、ネットワークの運営に必要な事項は、世話人会で協議して定める。

- 附 則
- 1 この会則は、平成14年8月4日から施行する。
 - 2 この会則は、平成15年4月5日から施行する。
 - 3 この会則は、平成19年4月8日から施行する。
 - 4 この会則は、平成20年4月6日から施行する。
 - 5 この会則は、平成31年4月20日から施行する。

丹沢大山ボランティアネットワーク入会届

年 月 日

丹沢大山ボランティアネットワーク
世話人会代表 様

丹沢大山ボランティアネットワークに入会しますので、入会届を提出します。

団 体 名
住 所 〒
代表者 氏名
〃 住所 〒
担当者 氏名
(連絡先) 住所 〒
〃 電話
〃 ファックス
〃 E-mail

団体の概要記入欄

| | |
|---------------|---|
| 設立時期 | |
| 会員数 | |
| 会報 | <input type="checkbox"/> あり (名称:) <input type="checkbox"/> なし |
| ホームページ | <input type="checkbox"/> あり (アドレス:) <input type="checkbox"/> なし |
| 保全活動に関するキーワード | <input type="checkbox"/> 美化活動 <input type="checkbox"/> 植樹、森林の育成 <input type="checkbox"/> 調査 (内容:) <input type="checkbox"/> 普及啓発 (内容:) <input type="checkbox"/> その他 (内容:) |
| 活動の概要 | 主な活動地域 () |
| 自由記載欄 | |
| 連絡方法 | <input type="checkbox"/> 郵送 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> ファックス <input type="checkbox"/> E-mail |

- 注 1 該当する□にチェックをしてください。
2 内容については、丹沢大山保全活動ホームページに掲載します。

丹沢大山ボランティアネットワーク退会届

年 月 日

丹沢大山ボランティアネットワーク
世話人会代表 様

丹沢大山ボランティアネットワークを退会しますので、退会届を提出します。

| |
|--------|
| 団 体 名 |
| 住 所 |
| 代表者 氏名 |
| 〃 住所 |

退会理由：

編集・発行

神奈川県自然環境保全センター

厚木市七沢 6 5 7

電話 046-248-0323